



アクサ生命保険株式会社

## 新ユニット・リンク保険（有期型）『Life DO』『Life DO 80』

### 平成29年度 特別勘定決算のお知らせ

#### 1. 運用環境（平成29年4月～平成30年3月）

##### 【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数（TOPIX）は前年度末比+13.47%の1,716.30ポイント（前年度末1,512.60ポイント）となりました。年度の前半は、一時1,500ポイントを下回った後、シリアや北朝鮮の地政学リスクへの懸念後退や、欧米株式市場が上昇したことなどを背景に上昇しました。年度の後半は、安定した国内の政権運営や米国の税制改革法案に対する期待感などを要因に上昇し、1月には一時1,900ポイントを上回りました。その後、米金利の上昇などを背景とした米国株式市場の下落や、円高米ドル安などを要因に日本株式市場は下落基調で推移しましたが、年度を通じては上昇となりました。

##### 【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が低下（価格は上昇）し、年度末には0.045%（前年度末0.065%）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスクへの懸念後退などを受けて0.105%まで金利は上昇（価格は下落）しました。その後、株安、米金利の低下が進んだことなどから、一時-0.015%まで低下する場面がありましたが、米金利の上昇に連れて、金利は上昇しました。年度の後半は、10年国債の需給の引き締まりが意識されたことなどから金利は低下しましたが、その後、欧米債券の金利上昇や、12月初めの入札が不調となったことなどを背景に、金利は上昇しました。2月に日銀の国債買い入れオペレーションにおいて国債の買い入れ額が増額されたことを受けると、金利は低下基調で推移しました。

##### 【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末のNYダウ工業株30種は前年度末比+16.65%の24,103.11ドル（前年度末20,663.22ドル）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスクへの懸念後退、堅調な経済指標などを背景に上昇しました。年度の後半は、税制改革法案に対する期待感などを要因に上昇基調で推移し、1月下旬には26,616.71ドルを付けました。その後、米金利の嫌気されたことや、米国の対中貿易制裁に伴う米中貿易戦争への警戒感などから下落基調となりましたが、年度を通じては上昇となりました。欧州株式市場は市場によってまちまちの展開となりました。市場別の年間の騰落率は、独DAX指数-1.76%、英FTSE100指数-3.64%、仏CAC40指数+0.87%となりました。

##### 【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇（価格は下落）し、年度末には2.739%（前年度末2.387%）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見直しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半は、レンジ圏で推移した後、12月下旬に米国の税制改革法案が成立したことなどを受けて金利は上昇しました。平成30年に入った後も中国当局者らが米国債の購入を減額ないし停止すると警告したと報じられたことや米経済の堅調さなどを背景に金利は2.954%まで上昇しましたが、年度末にかけては、米中貿易戦争への懸念などを背景に金利は低下（価格は上昇）しました。年度を通じては金利は上昇しました。年度中に、FRB（米連邦準備制度理事会）による、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標引き上げが3回行われ、計0.750%引き上げ、年1.500～1.750%となりました。欧州債券市場は、独10年国債の金利が上昇し、年度末には0.497%（前年度末0.328%）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見直しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半には、米金利の上昇や、ECB（欧州中央銀行）の金融緩和縮小に対する前向きな姿勢などを受けて金利は上昇傾向で推移し、0.8%超となる場面もありました。年度末にかけては2月に発表された独景況感指数やユーロ圏消費者物価指数速報値の軟調な結果や、ECB関係者が景気や物価に対して慎重な見解を示したことを背景に、金利は低下基調で推移しました。年度を通じては金利は上昇しました。

##### 【外国為替市場】

米ドル/円相場は、円高米ドル安となり、年度末には106.24円（前年度末112.19円）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見直しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半は、米国の税制改革法案への期待感などから円安米ドル高傾向で推移しましたが、1月に日銀が国債買い入れオペレーションを減額したことなどを受けて円高米ドル安基調に転じ、3月下旬には104.93円を付けました。ユーロ/円相場は、円安ユーロ高となり、年度末には130.52円（前年度末119.79円）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクへの懸念後退などの影響で、円安ユーロ高で推移しました。年度の後半は、ECBの金融緩和の縮小に対する前向きな姿勢などを要因に円安ユーロ高で推移しましたが、年度末にかけては、2月に米金利上昇などを要因に世界的に株安となったことなどを背景に、リスク回避のため安全資産とされる円が買われ、円高ユーロ安基調で推移しました。年度を通じては円安ユーロ高となりました。

#### 2. 特別勘定資産の内訳（平成29年度末）

（単位：百万円、%）

区 分	日本株投資力学 ファンド		日本株ジバング ファンド		日本株エポリュー ションファンド		日本株インデックス 225ファンド		日本株インデックス TOPIX ファンド	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・その他	39	4.4	56	4.3	66	4.5	177	4.4	42	4.4
株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	865	95.6	1,247	95.7	1,407	95.5	3,842	95.6	918	95.6
貸 付 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	905	100.0	1,304	100.0	1,473	100.0	4,019	100.0	961	100.0

区 分	グローバル グロースファンド		グローバルソブリン 債券ファンド		グローバルリート ファンド		グローバルカレン シーファンド <sup>(注1)</sup>		マネーファンド <sup>(注2)</sup>	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
現預金・その他	38	5.2	17	4.4	29	4.3	-	-	26	9.5
株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 株 式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	706	94.8	376	95.6	672	95.7	-	-	250	90.5
貸 付 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	744	100.0	394	100.0	702	100.0	-	-	277	100.0

（注）金額は百万円未満を切り捨て。構成比は小数点第2位を四捨五入。

#### 《グローバルソブリン債券ファンド》

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率 (%)	△ 0.32	騰落率 (%)	△ 11.96	騰落率 (%)	6.78	騰落率 (%)	24.03
	（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成15年7月1日。							
運用方針	世界先進国の信用度の高いソブリン債を中心に分散投資する投資信託に主に投資することによって、安定した収益の確保と長期的な成長を目指します。							
運用経過および 今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興・世界ソブリン・ファンドVA（適格機関投資家転売制限付）」 <sup>(注3)</sup> への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興・世界ソブリン・ファンドVA（適格機関投資家転売制限付）」 <sup>(注3)</sup> への高位の投資比率を維持します。							

#### 《グローバルリートファンド》

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率 (%)	△ 3.78	騰落率 (%)	△ 15.18	騰落率 (%)	27.11	騰落率 (%)	92.21
	（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成16年7月12日。							
運用方針	世界各国の上場不動産投信（REIT = Real Estate Investment Trust）を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に高い投資成果をあげることを目標とします。							
運用経過および 今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興・AMPグローバルREITファンド（6ヵ月決算型）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興・AMPグローバルREITファンド（6ヵ月決算型）」への高位の投資比率を維持します。							

#### 《マネーファンド》<sup>(注2)</sup>

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率 (%)	△ 0.24	騰落率 (%)	△ 0.62	騰落率 (%)	△ 0.96	騰落率 (%)	△ 1.92
	（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。							
運用方針	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。							
運用経過および 今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉」 <sup>(注4)</sup> への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉」 <sup>(注4)</sup> への高位の投資比率を維持します。							

（注1）主な投資対象の投資信託が、純資産残高の減少に伴い繰上償還される可能性があることから、特別勘定「グローバルカレンシーファンド」を、平成29年6月30日をもって廃止しました。

（注2）「マネーファンド」は株価、債券価格、為替等の変動の影響を受ける可能性が低いことを想定した特別勘定です。ただし、低金利環境下（マイナス金利を含む）では、「マネーファンド」の積立金の増加が期待できないだけでなく、諸費用の控除等により積立金が減少することもありますのでご注意ください。

（注3）当ファンドの名称は、平成29年7月6日より、「日興・GS世界ソブリン・ファンドVA（適格機関投資家転売制限付）」から「日興・世界ソブリン・ファンドVA（適格機関投資家転売制限付）」に変更されました。

（注4）特別勘定「マネーファンド」の主な投資先を、平成29年11月に「日興MRF（マネー・リザーブ・ファンド）」から「アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉」へ変更いたしました。

お問合せ窓口：カスタマーサービスセンター 0120-933-399

受付時間 月～金 9:00～19:00

土 9:00～17:00（日・祝日、12/31～1/3を除く）

### 3. 特別勘定の運用収支状況（平成29年度末）

（単位：百万円）

区 分	日本株投資力学 ファンド	日本株ジバング ファンド	日本株エポリュー ションファンド	日本株インデックス 225ファンド	日本株インデックス TOPIXファンド
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	-	10	-	42	12
有価証券売却益	17	57	17	53	23
有価証券償還益	-	-	-	-	-
有価証券評価益	141	238	211	458	109
為替差益	-	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-	-
有価証券売却損	-	0	0	0	0
有価証券償還損	-	-	-	-	-
有価証券評価損	-	-	-	-	-
為替差損	-	-	-	-	-
その他の費用	-	-	-	-	-
収支差額	159	305	229	553	144

区 分	グローバル グロースファンド	グローバルソリン 債券ファンド	グローバルリート ファンド	グローバルカレン シーファンド <sup>(注1)</sup>	マネーファンド <sup>(注2)</sup>
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	3	0	77	-	0
有価証券売却益	6	1	0	-	-
有価証券償還益	-	-	-	-	-
有価証券評価益	105	-	-	-	-
為替差益	-	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-	-
有価証券売却損	0	0	2	0	0
有価証券償還損	-	-	-	-	-
有価証券評価損	-	0	99	-	0
為替差損	-	-	-	-	-
その他の費用	-	-	-	-	-
収支差額	115	0	△ 24	△ 0	△ 0

（注）金額は百万円未満を切り捨て。

### 4. 保有契約高（平成29年度末 /9勘定合計）

（単位：件、百万円）

項 目	件 数	金 額
新ユニット・リンク保険（有期型）	2,583	16,704
合 計	2,583	16,704

（注）金額は百万円未満を切り捨て。

### 5. 特別勘定の運用状況

#### ◀日本株投資力学ファンド▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)		過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	18.58	9.65	70.27	72.58
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。					
運用方針	日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をトップダウンで選択する投資信託に主に投資することによって、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興アクティブ・ダイナミクス（投資力学）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興アクティブ・ダイナミクス（投資力学）」への高位の投資比率を維持します。				

#### ◀日本株ジバングファンド▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)		過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	23.52	29.01	105.65	169.40
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。					
運用方針	日本の経済および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる成長産業、成長企業の国内株式をボトムアップで選択する投資信託に主に投資することによって、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興ジャパンオープン（ジバング）」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興ジャパンオープン（ジバング）」への高位の投資比率を維持します。				

#### ◀日本株エポリューションファンド▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)		過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	16.73	9.98	74.39	46.12
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。					
運用方針	全世界の経済動向および産業構造の中長期的展望に基づき、今後有望とみられる国内株式を主な投資対象 <sup>(※)</sup> とする投資信託に主に投資することによって、中長期的な投資成果を積極的にあげることが目標とします。 (※) 国内株式を主要投資対象としますが、有望な投資対象が国内にない場合は、30%を上限にして海外株式に投資することがあります。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「日興エポリューション」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「日興エポリューション」への高位の投資比率を維持します。				

#### ◀日本株インデックス225ファンド▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)		過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	14.11	14.91	78.17	170.71
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。					
運用方針	国内上場株式に投資することにより、日経平均株価指数に連動した投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「インデックスファンド225」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「インデックスファンド225」への高位の投資比率を維持します。				

#### ◀日本株インデックスTOPIXファンド▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)		過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	14.31	15.25	72.93	123.79
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成14年11月1日。					
運用方針	国内上場株式に投資することにより、東証株価指数に連動した投資成果をあげることが目標とします。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「インデックスファンドTSP」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「インデックスファンドTSP」への高位の投資比率を維持します。				

#### ◀グローバルグロースファンド▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)		過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	17.33	22.93	101.74	150.14
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成15年7月1日。					
運用方針	日本を含む世界主要先進国の株式の中から特に世界的に競争力に優れた成長企業の株式に投資し、外貨建ベースの優れた収益の獲得を目指す投資信託に主に投資することによって、中長期的な観点から、日本を含む世界主要先進国の株式市場全体（MSCIワールド指数）の動きを上回る投資成果を目指します。				
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「Gグロース」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「Gグロース」への高位の投資比率を維持します。				